

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ④観光等分野(4/6)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
九州アジア観光アイランド総合特区 (福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、福岡市、一般社団法人九州観光推進機構)	4.0	<p>進捗度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアを中心とした九州への入国外国人数 126%</li> <li>・九州における訪日外国人の年間観光消費額 79%</li> <li>・特区ガイドの稼働者数 89%</li> </ul>	<p>規制の特例等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域限定特例通訳案内士(特区ガイド)育成等事業</li> </ul> <p>地域独自の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・九州観光推進機構による国内外とのネットワークの構築</li> </ul>	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特区通訳案内士の育成について、相応の実績を上げており、また、目標を達成するための過程の工夫や努力がうかがえ、高く評価できる。無資格ガイドについては、是非解決策を見出してほしい。</li> <li>・評価指標(1)「九州への入国外国人数」については、数だけでなく質を追う戦略が必要。</li> <li>・訪日外国人の年間観光消費額は未達だが、柔軟な対応とその努力は素晴らしい。課題はガイドの稼働率のさらなる向上であり、観光消費の増大促進策と連動させて、ガイドの登用・活躍を進めていくことが効果的。</li> <li>・各県の特色を生かして九州全体に回遊させるブランディングととがったコンテンツ開発が必要なほか、旅行者の国籍による消費性向の違いを踏まえたきめ細やかな取組を期待。</li> <li>・指標数値はコロナ禍や国際関係により大きく変化することも多いので、あまりとらわれる必要はないが、「九州への入国外国人数」や「訪日外国人の年間観光消費額」は、本取組の進捗に関する評価指標としては説明なく使われると違和感がある。</li> </ul>